

# エイジフレンドリーシティ推進戦略

## ～中央地区編～



### 【作成】

- エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ（中央地区編）
- 秋田市福祉保健部長寿福祉課 エイジフレンドリーシティ推進担当

### 【監修】

東京大学高齢社会総合研究機構 特任講師 後藤 純

2019年6月

---

## 目次

1 はじめに	1
2 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画について	1
3 ワークショップで出された様々な課題やアイデア	2
基本目標1の課題やアイデア	3
基本目標2の課題やアイデア	5
基本目標3の課題やアイデア	7
基本目標4の課題やアイデア	9
基本目標5の課題やアイデア	11
基本目標6の課題やアイデア	13
基本目標7の課題やアイデア	15
基本目標8の課題やアイデア	17
4 中央地区におけるエイジフレンドリーシティ推進戦略	19
5 推進戦略の実施に向けて	20
6 さいごに	21

## 1 はじめに

### エイジフレンドリーシティ推進戦略を策定した目的

秋田市では、平成21年度（2009年度）からエイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現を目指し、様々な取組を推進してきましたが、10年が経過した今、もう一度、原点に立ち帰り、「**年を重ねても住み続けたいと思える地域をみんなで作るためには、何が必要なのか**」を行政、市民、民間事業者が一緒になって考えることを目的とした「エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ」を平成30年12月から平成31年2月にかけて3回にわたり開催しました。

このワークショップには、生活支援コーディネーター<sup>\*1</sup>や民生児童委員、そしてエイジフレンドリーパートナー<sup>\*2</sup>やNPO法人、さらには秋田大学教育文化学部の学生など、さまざまな立場、年代の33名が参加し、自分たちが住んでいる地域にはどのような課題があり、それらを解決するためにはどのようなアイデアや方法があるのかについて話し合いを重ねました。そして、最終回において、中央地区における地域の課題を解決するための具体的なアイデアをまとめた、「エイジフレンドリーシティ推進戦略～中央地区編～」を策定しました。

この「エイジフレンドリーシティ推進戦略～中央地区編～」は、行政、市民、民間事業者の三者の協働によるエイジフレンドリーシティの実現を目指した、中央地区におけるまちづくりの一つの方向性を示したものであり、今後は「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会」<sup>\*3</sup>へ報告するとともに、アイデアの実現に向けて、引き続き、三者がそれぞれの役割を発揮しながら、ともに取組を推進していきます。

## 2 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画について

### 8つの基本目標

秋田市では、平成25年度（2013年度）に策定した第1次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画に続き、平成29年度（2017年度）からは、第2次行動計画に基づいた取組を推進しており、「心豊かで活力ある健康長寿社会」の基本理念のもと、エイジフレンドリーシティを実現するために、次の8つの基本目標を

設定するとともに、これらの目標を達成するための市が目指すまちづくりの方向性を「指標」として設定しています。

	基本目標	指標（市が目指すまちづくりの方向性）（抜粋）
1	安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設等のバリアフリーの推進</li> <li>・交通事故の少ないまち</li> </ul>
2	交通機関の利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス路線が維持され積極的に利用される</li> <li>・ノンステップバス等の導入により、誰もが利用しやすくなる</li> </ul>
3	安心して快適に住み続けられる住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護が必要になっても、リフォームなどをして住み慣れた家で最後まで過ごす</li> <li>・一人暮らしでも、近所の支え合いがある</li> </ul>
4	生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な高齢者が増え、趣味・スポーツ・生涯学習など積極的に地域社会に参加している</li> </ul>
5	あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代の交流や町内会活動が活発</li> <li>・若い世代が地域活動に積極的</li> </ul>
6	高齢者の就業や市民参加の機会創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生100年時代を迎え、生涯現役で活躍できる場を創出する</li> </ul>
7	高齢者の情報環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が必要とする情報が行き届くよう、あらゆる広報媒体を使用して、情報提供する</li> </ul>
8	多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命の延伸や、最後まで自宅・地域で暮らせるシステムを構築する</li> </ul>

### 3 ワークショップで出された様々な課題やアイデア

今回のワークショップでは、第2次行動計画で設定した8つの基本目標と指標について、次の視点で参加者に話し合ってもらい、その結果、数多くの課題やアイデアが8つの基本目標ごとにまとめられました。

- ・エイジフレンドリーシティを目指す上で、市が目指している方向性は正しいか。
- ・設定している目標・指標に対して、地域ではどのような課題があるか。
- ・地域での課題はどうしたら解決できるのか（アイデアや方法を考える）。

## 基本目標 1 安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備

指標（主観的指標）	近所を安心して外出できると感じている高齢者の割合
市が目指している方向性	・ 公共施設等のバリアフリーの推進 ・ 交通事故の少ないまち など

### 【ワークショップで出された課題・アイデア】

#### 歩道環境が悪い

課題	歩行者優先でない状況・歩道と車道の境がない道路もある
	歩道が斜めになっている・歩道に段差がある（歩行器が使いにくい）
アイデア	歩道をつくる・道をひろくする・こまめに除雪する
	台風通過後の地域内の確認（カーブミラー等の道路設備）

#### 自転車と歩行者の課題

課題	歩道が狭く自転車とぶつかりそうになる
アイデア	自転車専用道路をつくる

#### 防犯灯・街が暗い

課題	場所によっては防犯灯の数が少ない・夜間の道路歩道が暗い
アイデア	看板にもライトをあてる
	危険な場所を調べて住民に知らせておく・防犯カメラの設置

#### 気軽に集まれる場所がない

課題	気軽に集まったり、座ったり、ご飯を食べたりする場所が少ない
アイデア	特定の用途建物にスペースができた時アンケートで見直される仕組み
	住宅地内に公共の集会するような場所が欲しい

#### 便の良い地域なのでまとまりが悪い

課題	便がいいので元気な方々は遠くまで出かけているので地域での集まりは少ない
	地域住民との関係性 希薄

#### 除雪・歩道の除雪

課題	歩道のない所の除雪に問題がある・歩行が困難になる
	袋小路が多く除排雪が大変である・融雪道路が少ない
アイデア	ていねいな除雪

## 小中学校のバリアフリー

課 題	小中学校のバリアフリー化（エアコンも）が進んでいない。学校は誰もが集まれる場所としてもっと活用できるのでは？
-----	--

## 地区内の交通ルールの見直し

課 題	道路幅や住宅が多い場所の交通ルール
アイデア	交通規制などのルールの強化・ゾーン30を増やす



基本目標1において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 除雪も含めた歩行環境のバリアフリーの推進
2. 高齢者に配慮した地区内道路の車両移動(自転車を含む)に関するルールづくり
3. カーブミラー・防犯灯等による事故が少ないまち・犯罪にあわないまち
4. 誰もが気軽に集まれる小さな場所づくり

## 基本目標 2 交通機関の利便性の向上

指標（主観的指標）	バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思う高齢者の割合
市が目指している方向性	・コインバス事業により、高齢者の外出が促進される ・ノンステップバスの導入などにより誰もがバスを利用しやすくする など

### 【ワークショップで出された課題・アイデア】

#### バスの便・バス停の位置が不便

課題	バスの本数が少ない→時間の有効活用できない
	バス路線、時間が分からない
	バス停まで遠い

#### バスの乗降が不便

課題	シルバーカーなどを持って利用しにくい（置き場所がない）
	ノンステップバスが乗りにくい

#### バス停の環境が悪い

課題	バス乗降場所の除雪
	屋根なしのバス停が多く、雪や雨が降っていると寒い
	バス停にベンチが欲しい
アイデア	屋根付きバス停を増やす
	バス停のベンチに企業広告を入れて寄付してもらう

#### バス停までが遠い

課題	バス停まで遠く利用しづらい（特に高齢者は遠く感じているのでは）
アイデア	バス停まで遠い為、民間のタクシー会社と協定はどうか

#### 買い物が不便

課題	近くのスーパーに行くことが大変。足がない
アイデア	民間事業者からの協力
	移送サービス・移動の販売車
	若者に買い物をお願いできる仕組み

## バス以外の外出手段がない

課 題	バス以外の外出手段がない
アイデア	乗り合いタクシーが町内ごとにあると便利
	お店ごとに送迎バスを利用する
	曜日を決めて買い物等の乗物があれば良い
	小回りの利くバス路線の開発

## バス内の快適性向上

アイデア	バス内に荷物置き場を設ける
------	---------------



基本目標 2 において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. コインバス事業により、高齢者の外出を促進する
2. ノンステップバスの導入などにより誰もがバスを利用しやすくする
3. 市民ニーズにあったミニバス等の路線を増やす  
(秋田駅—中通総合病院)
4. 屋根をつけたりベンチを設置するなどバス停環境の向上を図る  
(バスに乗り遅れることへの心理的抑圧があるため早めに行ってバスを待つことができる環境をつくる)
5. 高齢者がスムーズ・快適に乗り降りできる工夫をする  
(どこに行くバスか分かり易く表示、カートを持っていても乗りやすい、混雑した車内でも席に座れるなど)



### 基本目標 3 安心して快適に住み続けられる住環境の整備

指標（主観的指標）	住環境に何らかの不便・不満を感じている高齢者の割合
市が目指している方向性	・介護が必要になっても、リフォームなどをして住み慣れた家で最後まで過ごす ・一人暮らしでも、近所の支え合いがある など

#### 【ワークショップで出された課題・アイデア】

#### 住環境整備について情報不足

課題	どのように住環境を整備すべきか分からない
	リフォーム費用の問題
アイデア	自宅改修の事例を紹介
	介護保険外のリフォーム資金を安い利息で貸してほしい
	リフォームにどれくらいの補助をしてもらえるのか情報が欲しい

#### 除雪の悩み

課題	雪寄せしづらい
アイデア	若者（学生）の雪寄せボランティアを募集する

#### 公衆トイレや公園が必要

課題	街中に公衆トイレや公園があれば助かる
----	--------------------

#### ご近所付き合いが希薄

課題	個人主義の人が多く（特に中央地区）近所の支え合いは簡単でない
	マンション居住者と地域の関りが希薄

#### 空き家が増える空き家が増える

課題	空き家が増えつつあって建物の安全が気がかりなものが散見される
アイデア	空き家をリフォームして集える場を設ける
	空き家を町内会館にして憩いスペースに
	高齢者向けシェアハウスなど空き家を利用してたくさん作る

#### 地域の支え合い・コミュニティ活動支援

アイデア	地域の支え合い活動を広げる
	市民参加型の事業への助成

## 地域情報不足・緊急時の悩み

課 題	地域の情報が伝わりにくい
	緊急時、災害時の助け合いの仕組みが不十分
	マンション独居の方の緊急時
アイデア	施設入所時、民生委員・町内会長に連絡してほしい



基本目標3において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 介護が必要になってもリフォームなどをして住み慣れた家で最後まで過ごす
2. 住環境整備・リフォームに関する情報を当事者に分かり易く伝える
3. ライフスタイルの違いを踏まえたご近所付き合いが深まる住環境づくり
4. 除雪問題、空き家問題などを産官学民協働で解決する体制づくり

## 基本目標 4 生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進

指標（主観的指標）	余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合
市が目指している方向性	・元気な高齢者が増え、趣味・スポーツ・生涯学習など積極的に地域社会に参加 など

### 【ワークショップで出された課題・アイデア】

#### 中央地区での社会参加とは？

課 題	社会参加は具体性に欠けるため参加しづらい。やりたいこと、興味のあることの共有が出来ない
	何でもある中央地区では、個人の趣味に向かう人が多く、地域社会への参加が進まない

#### ニーズにできていない

課 題	サロンやイベント 応えられていないニーズがあるのでは？高齢者が参加できるサロンって？
アイデア	何をやりたいか、知りたいか（どんな人とやりたいか）調査→やりたいことなら参加するのでは？

#### 男性の交流の場が少ない

課 題	サロン等、男性の参加者が少ない。交流の場がない
アイデア	男性向けの教室を開く

#### 集いの場の少なさ

課 題	集いの場（集会場）をあまり見かけない
	生活している近隣に公園が少ない
	一人暮らしの高齢者が過ごせる所がない

#### 集いの場への交通手段

課 題	集いの場があっても行けない
-----	---------------

#### 参加者が限定的

課 題	機会はあっても参加者は限られる。新しい人が加入できない
	何でも参加する人は決まっている

## 高齢者を巻き込むために

課 題	意識をどう掘り起こして行くか課題がある
	町内会の活性化と連携を密に
アイデア	高齢者でも生きがいを持って活躍できる場を増やす
	「集いの場」を作らず町内範囲で行き来する
	住民どうし気軽に声を掛け合えるようになったらと思う

## 民間スペースの活用

アイデア	市民市場、スーパーなどに高齢者が休憩できる場所の設置
------	----------------------------



基本目標 4 において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 元気な高齢者が増え、趣味・スポーツ・生涯学習など積極的に地域社会に参加する
2. 気軽に集まれる交流機会・空間を増やしていく
3. 小さなコミュニティ活動を通じて、興味のあることでつながりをつくる
4. 交流機会についての情報を当事者に分かり易く伝える
5. 高齢男性の社会参加について特化して支援をしていく

## 基本目標5 あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり

指標（主観的指標）	年齢を重ねることを肯定的に捉える人の割合
市が目指している方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代の交流が活発</li> <li>・町内会活動も円滑</li> <li>・若い世代が地域活動に積極的に関わっている など</li> </ul>

### 【ワークショップで出された課題・アイデア】

#### 高齢者の参加を促す・興味ある活動がない

課題	高齢者に活動の魅力が伝わっていないのでは？
	手に職のある人が名乗りを上げない
アイデア	高齢者は昔の地位、肩書を捨てること

#### 町内会活動の停滞

課題	町内会（地域）活動への関りが一部の人間のみ
	町内会活動は限られた高齢者しか参加しない
アイデア	町内会の情報の発信、伝達を工夫する
	人手が少なくてもできる方法を考える。
	現在行っている活動を知ってもらい仲間づくりしやすい環境を整える
	お祭りを活かす

#### 若者の参加を促す

アイデア	若者に対してどういった姿を示していくかの目標を提示する
	どのようなやりがい、役割を担う必要があるのか若者に説明する

#### コミュニティ活動に関する情報

アイデア	マッチングの場を作る
	ポスティングフリーペーパーの利用
	もっとテレビを活用できるのではないかな

#### シニアが若者を避けているのではないかな

その他	若者は意外と高齢者と話してみたいと思っているのに、高齢者に嫌われている気がする。
-----	--

## 若い世代に魅力が伝わらない

課 題	町内会の行事、ボランティア活動に若い人の参加が少ない
	若者に活動の必要性や魅力が伝わらない
	次の世代の担い手がいない
アイデア	親子で参加できるイベントを子ども企画で
	高齢者による勉強会（おじいちゃん、おばあちゃんが先生）
	小学生 生活科などの授業の一つとして地域のサロン活動を紹介
	学校の活動や部活の活動として、地域活動に参加していく
	地域の子どもたちの登下校のみまもり活動。スクールガードのようなもの。交流も生まれる



## 基本目標5において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 担い手の高齢化や若い世代の減少などにより町内会・自治会活動が停滞するなかで時代と共に町内会・自治会の在り方を見直して円滑化していく  
(若い世代・退職後のシニアに疎外感を与えない)
2. 若い世代のライフスタイルやニーズに沿った若い世代が参加したくなる身近な地域づくり
3. 町内会費を払っているが参加していない人を巻き込んでいく

## 基本目標 6 高齢者の就業や市民参加の機会創出

指標（主観的指標）	ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている 高齢者の割合
市が目指している方向性	・人生 100 年時代を迎え、生涯現役で活躍できる場を 創出する など

### 【ワークショップで出された課題・アイデア】

#### 高齢者雇用の課題

課 題	高齢者の雇用を増やす取り組み
	資格、経験がないと働ける場がない
	高齢者が有償で働ける場所がない
アイデア	高齢者に任せられる仕事は何かを探り、主導として活動してもらう

#### 多様な条件での就職支援

課 題	働きたくても持病や労働条件で働けない
アイデア	高齢者が働きやすい就労先を増やす
	高齢者の就職先企業を高齢者が応援、選択できる仕組み
	シルバー人材センターの登録
	作業所づくり（集える場所＝労働＝賃金）

#### 民生委員の負担

課 題	民生委員は大変な仕事というイメージが定着している
	民生委員の高齢化が目立ち欠員が出ている
アイデア	民生委員の「役割」「やること」「求められること」を明確に

#### 高齢者の活躍の場

アイデア	朝、夕の子どもたちの見守り
	技能伝承できること
	短時間のボランティアや自宅でもできる内容・行政に雇用の創出
	介護支援ボランティアの登録講習会を地域包括単位で行う

#### 早期の教育、子育て世代の参加

アイデア	早期の教育 担い手として子育て世代から参加してもらう
	小中学生と連携→意外と時間がある。職業体験みたいなかんじ

## コミュニティビジネス

その他	コミュニティビジネスの可能性を見つけるような機会を増やす
-----	------------------------------



基本目標6において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 地域課題の解決や得意分野を活かすなど人生100年時代を迎え、生涯現役で活躍できる場を創出する（コミュニティビジネスの可能性を見つける）</li><li>2. 地域がボランティアで進めている（主に民生委員が担う）部分の見直しと地域の担い手不足の解消をめざす<br/>（民間事業者、社会的企業などでの解決を図る）</li><li>3. 高齢者の置かれている状況に応じた多様な働き方を開発し就職支援をする</li><li>4. 人生100年時代の働き方、社会参加の在り方について早期教育をはかる</li><li>5. ボランティア活動や働く機会において若い世代との交流機会を増やしていく</li></ol> |
|---|



## 基本目標 7 高齢者の情報環境の整備

指標（主観的指標）	地域において福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者の割合
市が目指している方向性	・高齢者が必要とする情報が行き届くよう、あらゆる広報媒体を使用して情報提供する など

### 【ワークショップで出された課題・アイデア】

#### 読みにくさ

課題	新聞などでヨコ文字での記載が多く高齢者に分かりづらい 例 SNS
	市内美術館、資料館 屋外説明板の文書の大きさが小さすぎる
	公文書は表現が分かりづらい。市のホームページも
アイデア	行政の情報一本化

#### 読みやすさの向上

アイデア	高齢者版の広報あきたがほしい
	広報に高齢者用ページを設置する

#### 行政広報の解説

アイデア	行政からの書類について不明な時は地区コミセンで対応
	一緒に確認するスタッフなどを手配する
	若い人、知っている人によるサポート体制をつくる
	独居や高齢世帯向けの情報窓口を設置する

#### 見やすさの向上

アイデア	文章は少なくイラスト等で見やすく
	70歳以上にハズキルーペを格安で販売

#### 情報不足

課題	高齢者に情報が行き渡っていない
----	-----------------

#### ネットが使いこなせない

課題	ネット社会であるが、高齢者は使いこなしていない
----	-------------------------

#### 回覧板も見っていない

課題	町内会回覧板等を見していない人が多い。情報の伝え方に工夫があれば良い
----	------------------------------------

## 直接PRする

アイデア	町内を巡回して福祉サービスを周知する
	定期的な集まり等での周知徹底と仲間作り（おしゃべり等で）

## ICT活用ボランティア

アイデア	高齢者向けインターネットや携帯操作方法を教えるボランティア（学生さんなど）
------	---------------------------------------



基本目標7において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. シニアこそ最新情報に触れることが重要であり、高齢者が必要とする情報が行き届くよう、あらゆる広報媒体を使用して、情報提供する
2. 広報紙は文字数や行間等を増やして読みやすさを向上させる
3. 新しい情報機器などを活用してシニアが情報を受け取れる環境をつくる
4. 認知機能の低下を補うような情報発信をする  
(有料版広報、広報を同世代が読み解き教え合う)

## 基本目標 8 多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり

指標（主観的指標）	医療、福祉サービスの充実に満足している高齢者の割合
市が目指している方向性	・健康寿命の延伸や、最後まで自宅・地域で暮らせるシステムを構築する。

### 【ワークショップで出された課題・アイデア】

#### 制度の使いにくさ

課題	地域包括支援センターの活用を高めるPR
	介護保険の使いづらさ

#### 経済負担

課題	定期的な通院の交通費の負担
	医療費が支払えず通院をがまんしている高齢者

#### 移動手段の課題

課題	車社会である現在、病院までの移動手段が少ない
	病院巡りが大変

#### サービスへのアクセスを高める

アイデア	病院を一カ所に集めて通いやすくする
	福祉サービスで割安な移動手段の提供
	病院への送迎ボランティア
	病院循環バスの運行・費用を最小限に抑える巡回カー計画
	車のない高齢者の対応として訪問診療のPR

#### サービス不足

課題	そもそも往診する医師が少ない
----	----------------

#### 頼れる存在がない不安

課題	近くに頼れる存在がいなく、不安である
----	--------------------

#### 在宅生活のイメージがわからない

課題	最後まで在宅で暮らすというロールモデルを見たことがない
アイデア	在宅での看取りについて成功事例を知ってもらう

## 多職種連携について

アイデア	地域ケア会議 開業医の待合室で行う。文書不要、話すだけにする
	福祉、介護事業者同士のネットワークや交流を持つ会を作る

## 医療・介護情報について

課題	若者でさえ医療の情報をどこから入手すればいいのかわからない
アイデア	さまざまな問題に（高齢者問題）行政ワンストップ相談窓口を設置



基本目標 8 において、行政、市民、民間がともに目指したい方向性

1. 健康寿命の延伸について情報提供とともに具体的な対策を図る
2. 医療介護福祉制度に関する最新情報不足や一部誤解などが多く正確な情報提供とともに啓発を図る
3. 最後まで自宅・地域で暮らせるイメージを啓発していく
4. サービス不足、病院の掛け持ち、頼れる家族の不在などが重なり、在宅ケアが望まれていない実態を踏まえた最後まで自宅・地域で暮らせるシステムの構築が必要である

基本目標2 交通機関の利便性の向上

【課題】

- 屋根なしのバス停が多く、雪や雨が降っていると寒い
- バス路線、時間がよく分からない
- バスは、席が空いているのに実際の人数よりも混んでいるイメージがあり、シルバーカーなどを持った高齢者は乗りづらい。



1-1 【バス停の環境改善戦略】

1. 屋根付きのバス停にベンチも設置
2. 到着時刻お知らせ機能付きバス停

1-2 【バス車内の環境改善戦略】

1. 席は詰めて座ろうキャンペーンを大々的に行う
2. ぐるるにボランティアガイドを乗車させる



基本目標5 あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり

【課題】

- 町内会（地域）活動への関りが一部の人間のみ
- 町内会の行事、ボランティア活動に若い人の参加が少ない
- 若者に活動の必要性や魅力が伝わらない
- 手に職のある人が名乗りを上げない



3 【時代に合った町内会活動戦略】

1. 地域住民や学校、保育園などが主体となって、まずは「近隣へのあいさつ運動」を展開。雪寄せやゴミ捨ての際には、積極的にあいさつを交わすほか、イベントなどでオシャレなチラシを配布して普及啓発をする
2. 町内会で新しいお祭りを開催してみる
3. 親子で参加できるイベントを実施するほか、高齢者が先生の教室を開催する

基本目標4 生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進

【課題】

- サロン等、男性の参加者が少ない。交流の場がない
- 社会参加に対する意識をどう掘り起こして行くか課題がある
- 何でもある中央地区では、個人の趣味に向かう人が多く、地域社会への参加が進まない



2 【高齢者の居場所づくり戦略】

1. 男性向けのサロンを実施
2. 住民が主体となり「あおぞら交流会」を地域の公園などで開催。その際、ベンチの設置については、エイジフレンドリーパートナーに協力してもらう
3. 新たにサロンを作るのではなく病院や図書館、スーパーなどをサロン化する



基本目標7 高齢者の情報環境の整備

【課題】

- 公文書や新聞などでヨコ文字での記載が多く高齢者に分かりづらい
- そもそも高齢者に情報が行き渡っていない
- ネット社会であるが、高齢者は使いこなしていない



4 【高齢者向け広報戦略】

1. 高齢者用の広報あきたを作成
2. エイジフレンドリーパートナーによる行政情報の配布
3. 学生などの若者の指導による高齢者向けインターネット・スマホ教室（IT教室）を開催する



## 5 推進戦略の実施に向けて

ワークショップを通じてまとめられた4つの推進戦略を実現するための目標や実施主体を以下のとおりまとめました。今後は、推進戦略の実施に向けて、行政、市民、民間事業者の三者がそれぞれの役割を發揮しながら取組を推進していきます。

### (1) 2021年度（令和3年度）までの実施目標

	戦略名	実施目標	実施主体（案）
1	バス停の環境改善戦略 およびバス車内の環境改善戦略	屋根付きバス停・ベンチを中央地区に1カ所設置	秋田市、中央交通、民間事業者（ハートナ）、市民
		到着時刻お知らせ機能付きバス停設置の実現性について検証	秋田市、中央交通、民間事業者
		「席は詰めて座ろうキャンペーン」をSNSやテレビ等で発信するための手法を市民と協働で考案	秋田市、市民、民間事業者（ハートナ）
		ぐるるへのボランティアガイドの乗車やAIの活用等について、竿燈期間中などの観光客が多い時期などで実験的に実施する	秋田市、中央交通、民間事業者（ハートナ）、市民
2	高齢者の居場所づくり戦略	男性向けのサロンを4カ所新たに設置	市民、生活支援コーディネーター、民間事業者（ハートナ）
		あおぞら交流会を1地域で新たに開催	市民、生活支援コーディネーター、民間事業者（ハートナ）
		図書館でのサロンの実現に向けて検証	秋田市、生活支援コーディネーター、市民
3	時代に合った町内会活動戦略	「近隣へのあいさつ運動」の手法やチラシの作成等市民と協働で考案	秋田市、市民、民間事業者（ハートナ）
		町内での新しいお祭りを1地域で開催	市民、民間事業者（ハートナ）
		高齢者が先生となる教室を1地域で開催	市民、生活支援コーディネーター

	戦略名	実施目標（案）	実施主体（案）
4	高齢者向け広報戦略	高齢者用の広報紙の作成について市民の意見をさらに深掘りし、作成に向けて検証する	秋田市、市民、民間事業者（パートナー）
		学生などの若者指導による高齢者向け ICT 教室を 2020 年度から年 2 回開催	秋田市、市民（学生）、民間事業者（パートナー）
		冊子「暮らしに役立つサービス」などの行政情報誌 500 冊以上をパートナーが各家庭を訪問する際などに配布してもらう	秋田市、パートナー

## 6 さいごに

今回のワークショップを通じて、中央地区における課題が整理され、エイジフレンドリーシティを実現するためのアイデアが具体化されてきました。今後は、令和3年度までの実施目標をもとに、これらの戦略について、行政、市民、民間事業者の三者の協働により「実現可能なものなのか」「さらにいいアイデアがあるのではないか」といった検証を繰り返しながら、実現に向けた取組を推進していきます。

### 【注釈一覧】

- ※1 **生活支援コーディネーター**：介護予防・生活支援サービスの担い手の養成・発掘等の地域資源の開発、サービス提供主体間の連携体制づくりなどを行う。秋田市では、平成30年（2018年）4月から市内18箇所全ての地域包括支援センターに配置されている。
- ※2 **エイジフレンドリーパートナー**：秋田市と連携してエイジフレンドリーシティの実現に取り組んでいこうとする企業・事業者等をエイジフレンドリーパートナーとして登録し、民間サイドからエイジフレンドリーシティの実現に向けた取組を推進しようとする制度
- ※3 **秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会**：学識経験者や専門家、公募市民等を含む委員から構成された委員会。秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の円滑な推進を図るため、行動計画に係る施策の進行管理や評価、新たな施策の提案を行う。

## エイジフレンドリーシティ推進戦略～中央地区編～

---

2019年6月発行 秋田市福祉保健部長寿福祉課

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

電話：018-888-5666 FAX：018-888-5667

E-mail:ro-wflg@city.akita.lg.jp

### エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ（中央地区編）参加者

※所属先等はワークショップ参加時のものです。（敬称略）

#### 【八橋地区】

佐藤 元子 八橋地域包括支援センター圏域 生活支援コーディネーター

佐藤 芳子 八橋地区民生児童委員協議会 副会長

工藤 紘一 旭北地区民生児童委員協議会 副会長

保坂 ひろみ NPO 法人秋田たすけあいネットあゆむ理事長

鎌田 徹 有限会社 サンショウ

天野 厚助 株式会社 むつみワールド 情報戦略室長

森屋 利香 秋田大学教育文化学部1年

清野 良太 秋田大学教育文化学部3年

#### 【川元地区】

阿部 奈穂美 川元地域包括支援センター圏域 生活支援コーディネーター

小野 陵子 旭南地区民生児童委員協議会

佐藤 昭弘 川元包括圏域きずな会委員

三浦 喜美子 川尻地区民生児童委員協議会 会長

戸巻 春美 株式会社 みらい 代表取締役

佐藤 希 株式会社 能登谷工務所

花田 弘幸 ALSOK 秋田 株式会社 営業係長

佐藤 正弥 ALSOK 秋田 株式会社 営業主任

清水 寛 秋田大学教育文化学部3年



## 【泉地区】

藤田 弘子 泉地域包括支援センター圏域 生活支援コーディネーター

佐藤 富子 泉地域生活支援協議会委員

武田 信行 保戸野おもいやり協議会副会長

坂下 美渉 NPO 法人あきた結いネット理事長

堀井 健一 NPO 法人あきた結いネット事業推進部長

石黒 久美子 あきた年の差フレンズ部

佐々木 華倫 秋田大学教育文化学部3年

## 【中通地区】

鈴木 優子 中通地域包括支援センター圏域 生活支援コーディネーター

池田 實 中通地区民生児童委員協議会 会長

鈴木 夏代 築山地区民生児童委員協議会 副会長

田村 敏 東部ガス(株)秋田支社お客さまサービスグループマネージャー

安養寺 和也 東部ガス(株)秋田支社お客さまサービスグループサブマネージャー

進藤 祐輔 日本電機興業 株式会社 常務取締役

三浦 菊夫 日本電機興業 株式会社

淡路 友花 秋田大学教育文化学部2年

池田 圭佑 秋田大学教育文化学部3年

---